

こんにちは 牛越です

【第158回】

盛んに秋の催しが



大町市長 牛越徹

秋が徐々に深まる先月7日、第22回市民ふれあい広場が、秋晴れの柔らかな日差しの中、大勢の市民の皆さまご参加の下で開催されました。

この催しは、協働のまちづくりの実現に向けて、福祉や子育て、健康を考えるとともに、生活と環境を守る意識の高揚と市民相互の交流を目的としています。28団体の出展があり、食べ物・販売コーナーでは、福祉施設の皆さんが作ったクレープやおにぎり、大町の漬物や野菜、また親子でお楽しみコーナーでは、子ども会ジュニアリーダーのものづくり、そして展示・体験コーナーでは、環境展やパラスポーツのボッチャ体験など、あちこちに人だかりができていました。地域の絆が薄れる中、ふれあい広場での交流を通じて触れ合う喜びや地域のつながりの大切さを再確認いただく機会となりました。

また、15日には、スポーツの秋を象徴する大町アルプスマラソンが、朝の小雨が回復する中、2618人がエントリーして開催されました。昭和58年に始まり本年第40回の節目となり、ゲストランナーに名古屋マラソンで優勝を果たした加納由理さんを迎え、盛り上がりのある記念大会となりました。

選手へのおもてなしとして、市名産のリンゴやキノコ汁が振る舞われました。大北陸上競技協会ははじめ500人ものボランティアの皆さんの

ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、来年9月13日の開幕まで1年を切った北アルプス国際芸術祭はいよいよ準備が本格化し、第一弾として海外を含む11人・組の作家と、芸術祭を象徴するメインビジュアルが発表されました。このデザインは、芸術祭ビジュアルディレクターの皆川明さんの制作で、水をテーマに、山々に染みて川となり湖につながる姿を、青の線と点で表現しています。地域協創セミナー「北アルプスまほろば塾」は第二弾として、市内酒蔵の杜氏大塚真帆さんと、前回芸術祭に参加した松本秋則さんを招きワークショップが開催され、松本さんの会場では、参加者が竹で楽器を作り、この「竹音響」で心地よい音を楽しみました。

また、信濃大町アーティスト・イン・レジデンスでは、8月から市内に滞在して制作した4人の作家の作品が、先月9日まで各会場に展示されました。私も会場を巡り、豊かな感性から生まれた作品が、作家独自の多彩な表現方法で制作されていることに感銘を受けました。

こうした文化・芸術やスポーツなどの活動が、地域の風土にしっかりと定着し、暮らしに潤いを与えてくれることを期待するとともに、市民の皆さまの深いご理解とご協力をお願いいたします。